

# 患者苦しめる署名運動

## 水俣病の第一の公開質問状 新認定患者

水俣市で水俣病問題についての患者の行政的救済などを訴える署名運動が起きているが、同市月浦、看護人川本輝夫さん(四〇)ら新認定患者十八人は「患者のほんとうの気持ちをよくしてもらっていない」との公開質問状を出し、患者

支援を呼びかけている。二十八日の自民党など各種団体長など十六人の発起人に対する質問状に続き三十一日には「その二」のヒソを全市に配布した。全

体的には「チツソの企業責任に触れない署名運動は、患者をかえって苦しめるものだ。いまの状況は、地域世論の圧迫によって患者が孤立させられた三十四年当時と似てきている」というもので、こ

れに対し署名運動者側は沈黙している。川本さんらは今後も公開質問を続ける、と言っている。また、もう一つの池松信夫氏(新日本化学KK取締役、市監査委員)らが発起人となっている市民

公害対策協議会の署名運動へも三日ごろ、署名運動の趣旨などについて具体的な公開質問状を出すとにしている。

こうした動きの中で、一部患者宅に匿名で「一般市民はあなたたちが騒ぐので迷惑している」「あなたたちの目的がわからなくなつた」などの手紙が寄せられており、川本さんらは「チツソに言うのならわかるが、患者に、というのは筋違いだ。これらも公表する」と怒っている。